しおさい

獅子舞「乗り権現舞」

CONTENTS

●特集記事 シリーズ㉑ ふるさと見聞録：東栄（とうえい）を訪ねて……2
●明日へのかけはし：東通村グラウンド・ゴルフ協会……4
●クローズアップ こんにちは元気さん：竹林（たけばやし）　竹光（たけみつ）さん……4
●ファイト!わんぱく：東通小学校ミニバスケットボール部……5
●地元の特派員レポート：伊勢田（いせだ）　海理君（かいり）／澤田（さわだ）　信子（のぶこ）さん……6

vol.23
令和2年度発行
東北電力(株)東通原子力発電所

特集記事 東通村29の集落の特徴的風物や人物を探る！

シリーズ㉑ ふるさと見聞録

日本最後の開拓地

東栄（とうえい）を訪ねて

人と人との繋がりを大切にする結束力の強い地域

津軽海峡を望む丘陵地帯の東通村石持地区、入口地区、そして蒲野沢地区の境目にある、酪農を主な産業とする開拓集落が東栄地区です。

昭和33年（1958年）、当時の農林省から「日本最後の開拓地」として酪農畑作営農モデル地区に指定され、県が入植者を募集。選考を経て、石持、鹿橋、古野牛川、畏部、むつ、遠くは平賀、十和田、平内から14世帯53人が入植。このとき「第二稲崎平」と呼ばれていたこの地を、当時の二本柳榮太郎村長が「東通村で栄えて欲しい」という願いを込めて「東栄」と名づけたそうです。

耕地面積は、国有地170ヘクタールと共有の民有地180ヘクタールの計350ヘクタールで、各戸に6町歩（約6ヘクタール）の土地とメス牛1頭が割り当てられ開墾が始められました。入植当初の酪農は、1日も休むことができない朝晩の搾乳がまだ手絞りだったため、とても大変な仕事でした。搾乳した生乳を入れた集乳缶の運搬は子どもたちにも手伝ってもらい、乳牛の世話は家族全員で協力して行いました。昭和44年（1969年）のピーク時には、地区で300頭以上の乳牛が飼育されていたそうです。

馬で雑草取り

畑作は、入植当初は盛んに行われていました。地区にトラクターがなかった時代は、共同で飼育していた馬3頭で畑を耕し、やがて県からトラクターが1台支給されオペレーターが常駐するようになると、徐々に畑作も拡大していったそうです。入植当初、畑作の中心は牧草でしたが、新たな収入源の主力として菜種を作付けするようになりました。ほかには、ジャガイモやデントコーン、砂糖の原料となるビートを作付けしました。

また、千葉県の（株）日本ベジタの依頼で、刺身のツマ用の大根を作付け。千葉県と大根の収穫時期が異なっていたため、東栄地区の大根は大変重宝されました。酪農が本格的になると畑作の規模は縮小していきましたが、大根の作付けは現在でも40町歩ほど行われているそうです。

東栄地区集会施設「大地の里」

昭和45年（1970年）を境に、乳価が下がったことと、地価が高騰し土地を手放す好機であったことから、地区内で離農が進行。現在、東栄地区で酪農を営んでいるのは2世帯で、他には農家、農地の貸し付けを行っている人、企業に勤めている人などが暮らしています。

地区の活動としては、入植した当初から毎月10日の集会や12月末の総会などがあります。毎月の集会は、現在は集会所で開催していますが、以前は持ち回りで各家々に集まって行っていたそうです。8月25日の入植記念日は手踊りなどでお祝いをしています。

婦人会の方々

東栄地区は、広大な土地でありながら洪水や山崩れなど災害の心配がありません。また、少人数なので仲が良く、常に助け合いの精神で協力し合う地域です。

入植当時みんな協力して農作業

県のオペレーターが常駐していた施設

をしなければ生きていけない、という想いで過ごしました。20代の頃から写真撮影が好きで、地区の記録を撮りためています。今も写真を撮りパソコンで作業し、7段のたんすに数千枚の写真を保存しています。

東栄は住民同士の付き合いがよく、ここで暮らして良かったと思っています。

東栄地区

開拓45周年に、石碑を建立し記念誌を発行!

東栄開拓45周年を迎えた平成16年(2004年)、地区では実行委員会を立ち上げ、記念式典、記念碑建立、記念誌の発行を行いました。入植者の高齢化に伴い「自分たちが元気なうちに足跡を残したい」との思いから記念事業を決意したそうです。まずは地域の人たちの手で記念碑を建立。「東栄の地にしみた汗忘れなん」は、越善靖夫村長が筆をふるい、裏には住民全員の名前を刻みました。記念誌には懐かしい写真と開拓年表をまとめました。記念祭では各集落から代表が集まり、村をあげて東栄開拓45周年を祝いました。

東栄開拓45年周年記念碑

地区民が力を合わせて記念碑を建立

東栄開拓45周年記念誌

記念碑除幕式

東栄地区 会長　宮川(みやかわ)　薫(かおる)さん(61歳)

東栄地区は、世帯数8戸、人口20人の集落です。世代交代で今年度から会長を務めています。私の家族は、私が生まれる前に鹿橋から入植しました。子どもの頃は、集会所でみんなと一緒に楽しく過ごしていました。今は酪農ヘルパーとして働いています。地区の世帯数はどんどん減っていますが、力を合わせて維持していけるよう頑張るしかありません。人数は少ないながら、協力し合い何でも一緒に取り組む地域です。

前 東栄地区会長
藤沢(ふじさわ)　豊勝(とよかつ)さん(91歳)

私は、28歳のとき家族4人でむつ市から入植しました。地区会長を40年間、旧東通村農協では合併後も含めて理事を25年間務めました。酪農のほかにも、いろいろな野菜作りに取り組みました。近年までイチゴ栽培を行っていましたが、今は孫が跡を継いでくれています。動物が好きで、ニワトリ、ウサギ、豚、アヒル、ガチョウ、キジ、七面鳥などを飼っていました。入植して大変なこともありましたが、自然のなかで悠々と生きてこられたのは幸せなことです。地区での争いごとは一度もなく、助け合い、協力し合う、素晴らしい集落です。

初代 東栄地区会長
須道(すどう)　信一(しんいち)さん(89歳)

元々は古野牛川で漁師をしていましたが、青森県の推薦を受け酪農実習生として北海道早来町で1年間学び、24歳のとき家族3人で入植しました。入植当時は、ここで牛飼い

明日へのかけはし

東通村の頑張るグループを紹介

活動の輪を広げ、積極的に試合に参加！
［東通村グラウンド・ゴルフ協会］

柴田妙子理事長と山崎博文会長

ゴルフのように専用のクラブでボールを打ち、ホールポストにホールインするまでの打数を数え、「いつでも」「どこでも」「だれでも」楽しくできるスポーツがグラウンド・ゴルフ。

青森県内のさまざまな大会に出場し腕を磨いているのが、東通村グラウンド・ゴルフ協会です。

はじまりは平成27年（2015年）、東通村教育委員会が生涯学習の一環として開催したグラウンド・ゴルフ教室です。そこに参加した人たちが平成28年（2016年）、グラウンド・ゴルフクラブを結成。今年度からは「協会」と団体名を変更し活動の幅を広げています。

会員は30代から80代の男女22人。毎週火・木・日曜日の午前に、東通中学校のグラウンドで試合形式の練習を重ねているほか、むつグラウンド・ゴルフ協会の協力を得て、むつ市の「ウェルネスはらっぱる」や「しもきた克雪ドーム」の練習にも参加しています。

これまで、村の大会はもちろん、県民体育大会やむつ市長杯、県内各地の大会などに出場。400～500人が参加する大会でグループ4位、ペア11位などの成績を収めています。柴田妙子理事長（64）は「さまざまな大会に遠征して、いろんな人の技術を学ぶのはおもしろい。ホールインワンの快感やスポーツをしたあとの清々しさは、本当に素晴らしい。いつかは高難度のダイヤモンド賞を取りたい!」といきいき。

山崎博文会長（67）は「東通村グラウンド・ゴルフ協会の中には、資格を持つ指導員が7人もいるんですよ。今後の目標は、県の大会で会員が3位以内に入賞することです。現在、当協会では会員を募集しています。興味のある方は、ぜひご連絡ください!」と話していました。

【お問い合わせ先】
東通村体育館 東通村グラウンド・ゴルフ協会事務局 ☎0175-27-2200

東通村グラウンド・ゴルフ協会のみなさん

車椅子の会員も元気に楽しんでいます

日頃の練習は東通中学校グラウンドで!

村内で元気に活動する人を紹介!

クローズアップ こんにちは元気さん

元気さん

東通村畜産共進会で グランドチャンピオン賞を受賞!

竹林（たけばやし） 竹光（たけみつ）さん（81歳）

東通村村営第2牧場で8月に開催された、令和2年度 第52回東通村畜産共進会。見事グランドチャンピオン賞に輝いた繁殖農家の竹林竹光さんと「みらい号」を訪ねてみました。

牛舎に入ると、竹林さんを優しい表情で見つめる牛たち。「ここにくれば、みんなの体を毎日なでているから、牛が人を敵と思っていないんだ。出産は大変でも命を運んで来る。子牛はめごくてな」と話し始めました。上田代生まれの竹林さんは畜産・繁殖農家の2代目。18歳からお父さんと一緒に牛を育ててきました。現在、親牛である15頭の繁殖黒毛和種と、7頭の子牛を育てています。

今回、共進会の最高賞であるグランドチャンピオンに輝いた2歳の「みらい号」は、美しい姿とピカピカの毛並、綺麗な目の輝きが魅力。「繁殖農家は、子牛が生後10ヵ月目を迎えると肥育市場に出すが、私は子牛が9ヵ月目を迎えると、尾の付け根や後ろ姿を見て、美人な子牛を残す。そこから、立ち姿が美しくなるように育成して共進会に出品する」と竹林さん。立ち姿が美しくなるトレーニングとして、足の間に丸太を入れたり、畳を使って前足を高く上げることで後ろ足の筋肉の強化を図るなど、いろいろな工夫を凝らして育成しているそうです。「共進会は畜産家にとってお祭り。チャンピオンになればおもしろくて、おもしろくて。牛からパワーをもらって、もっと頑張ろうと思うんだ」。平成24年（2012年）には竹林さんの育てた「あみ号」が、下北から50年振りに青森県代表に選出され、全国大会に出場しました。

竹林さんの元気の秘訣は、毎朝飲む栄養ドリンクと筋トレ。栄養ドリンクは「あみ号」の大好物でもあり、牛舎には欠かさないとのこと。休日には、息子の武彦さんと孫の大一さんも手伝ってくれるそうです。「これからも頑張って全国の共進会に出品できるいい牛を育てたい」と意欲的に話していました。

第10回全国和牛能力共進会（平成24年）に青森県代表で出場した「あみ号」

第52回東通村畜産共進会でグランドチャンピオンに輝いた「みらい号」

東通小学校 ミニバスケットボール部

東通小ミニバスケットボール部のみなさん

個性豊かで笑顔あふれる活発なチームが、東通小学校ミニバスケットボール部です。男子は昨年、「第44回青森県スポーツ少年団フェスティバルミニバスケットボール競技会むつ下北地区予選会5on5の部」で第2位の成績を収めました。

部員は4年生から6年生まで、男子23人、女子7人。練習は、毎週火・木・金曜日に、体育館で男女一緒に汗を流します。監督の中田美沙希先生、コーチの鳴海大河先生、高橋良恵先生、相内郁香先生に加え、氣仙宏校長先生も指導にあたっています。

具体的には、準備運動のあとダッシュ、ドリブル、シュートなどのメニューを2人の先生が丁寧に教える「じっくりチーム」と、シュートやゲームなどのメニューをスピード感を持ってテンポよくこなす「ぐんぐんチーム」があり、子どもたち自らが選択して練習します。また、楽しみながらミニバスケットボールを好きになってもらいたいという思いから、練習に大縄跳びを取り入れたり、全員がシュートを決めたらゲームに移ったりするなど、工夫を凝らしています。試合が近づくと、声出しにも気合いが入り、いつもよりハードルを上げて練習を行います。

東通小学校ミニバスケットボール部員の特徴は、やると決めたことを本気で頑張る心の強さ。個性の強い子どもたちが多いので、2人の部長が全体をまとめるのは大変ですが、男子の部長はチームの柱として、女子の部長は全体をよく見てチームをうまくまとめ、全員が着実に上達してきています。男子部長の相馬翼君(6年)は「今年度の残りの試合に向け、キャプテンとしてちゃんとチームをまとめ、練習は楽しく厳しく、試合では2勝するぞ!」とキッパリ。女子部長の佐藤あやめさん(6年)は「男女一緒の練習は、男子より力の弱い女子にとって、とてもいい練習になります。部員数が少ないので、試合中コートにいる時間が長く疲れてしまいますが、もっと体力をつけ、1試合でも多く勝ち、後悔しないように全力で頑張ります!」と決意を語ってくれました。

部員の父母たちは、大会の応援のほかにも、スコアシートの記入や消毒など、見えないところで大会をバックアップしてくれています。

監督の中田先生は「ミニバスケットボールはチームで行う競技。あいさつに始まり、競技での心構え、相手を信頼して思いやる気持ち、最後の片付けまで、少しずつ成長してきました。ミニバスケットボールを通じてバスケの楽しさと達成感を味わい、今後の人生に少しでも役立ててもらいたいですね」と話していました。

男子部長
相馬(そうま)　翼(つばさ)君
(6年)

女子部長
佐藤(さとう)　あやめさん
(6年)

ミーティングもしっかり

真剣にシュートの練習

試合で力いっぱい頑張る子どもたち

ユニフォーム姿の男子部員

ユニフォーム姿の女子部員

東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

レポートは10月に作成し
写真は特派員が
自ら撮影したものです。

3つの神社がある白糠

東通村白糠在住
東通小学校(6年)　伊勢田（いせだ）　海理君（かいり）(12歳)

ぼくの住んでいる白糠は東通村の一番南にあります。

白糠には赤岩神社、赤平神社、高倉神社とすばらしい神社が3つあります。毎年7月には盛大な祭りが行われていますが、今年は新型コロナウイルスのせいで残念ながらできませんでした。来年は祭りができることを願っています。物見埼灯台もすばらしいと思います。灯台のところから白糠全体を見わたすことができて、漁港から見えるイカ釣り漁船と灯台の景色もきれいです。白糠バイパスから見える太平洋の海もとてもよいながめです。広く大きく、きれいな色をしていて感動します。みなさんもぜひ見てみてください。

白糠灯台（別名:物見埼灯台）

あと、白糠にはおいしい食べ物がたくさんあります。海でとれた新鮮なイカやウニは最高です。もっとたくさんありますが、中でも、イカのさしみとふのりのみそ汁が大好きです。

赤岩神社

赤平神社

高倉神社

イカ釣りが盛んな白糠漁港

大好きな
イカのさしみ

砂子又の歴史を見てきた「三世帯の木（命の木）」

東通村砂子又在住　澤田（さわだ）　信子（のぶこ）さん(64歳)

私は砂子又に住んで40年近くになります。ずーっと眺めてきた木があります。その木が位置するのは、子ども達の通学路であり、私の散歩コースでもあります。その木は、立ち枯れたイチイ（おんこ）の木だそうです。ただ、枯れたといっても、枝振りが良く、木肌がツヤツヤとし、木目の模様がきれいで、とても素敵なのです。その木の割れ目からは、不思議なことに桜の木が育っており、春には満開の桜が咲き誇ります。また、紅葉の季節には、真っ赤な葉を持つ木も育っています。思わず「三世帯の木」だと、側にいる孫達に話しかけていました。そして写真を撮り続けています。

きれいな木目のイチイ

通学する児童たち

「三世帯の木」の春夏秋冬

95歳になる方から聞いたお話ですが、昭和38年（1963年）に大きな水害があり、その木の側にある田名部川が氾濫し、逃げ場を失った数名の方がその「おんこの木」によじ登り命拾いしたそうです。川に橋を新しく架ける時も、その木を切らないようお願いし残してもらったそうです。今では、お正月に御神酒を供えていると言います。その話を聞き、とても感動しました。

どっしり構えたその姿を私なりに残しておきたいと思い、その木の春夏秋冬を写真に収められずにはいられませんでした。

発行

東北電力（株）東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について
★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音（しおさい）のように、皆さまの心に末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

編集後記

しおさい第23号、いかがでしたでしょうか。

今回の「ふるさと見聞録」では、実際に開拓にたずさわった方々から当時の貴重なお話を伺うことができました。

希望とともに生まれ故郷を離れ「日本最後の開拓地」に移住することを決意した、当時の皆さまの気概には感服してしまいます。しかも、当時は20代！当時からのたくましさが、長生きの秘訣の一つかもしれませんね。

今後も、東通村の皆さまに親しまれる広報誌の作成に努めてまいりますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願いいたします。